海外事情（モンゴル）

第6次FEC モンゴル訪問団視察報告

2026年7月7日～７月12日

（一財）松本記念財団
理事　長谷川フジ子

MATSUMOTO GLOBAL FOUNDATION

1 モンゴル国の基本情報

直行便あり：ウランバートル → 成田空港
おおよそ 5時間前後　　時差：1H

首都	ウランバートル （人口約179.6万人）（2025年、NSO）
人口	約359.1万人（2025年、モンゴル国家統計局（以下「NSO」））世界一人口密度が低い国
面積	156万4,100平方キロメートル（日本の約4倍）
体制	共和制（大統領制と議院内閣制の併用）
兵役	徴兵制、男子満18歳～25歳のうちの1年間
宗教	モンゴル仏教等
言語	モンゴル語（国家公用語）、カザフ語 言語能力が高い
人種	モンゴル人（全体の95%）及びカザフ人等
通貨	トグログ（MNT）　1円＝約22トグログ

出所：日本国外務省　　赤字：現地情報

2 モンゴルの発展と現状

経済成長と都市開発の進展

新空港の都市開発が進み、モンゴル経済の成長を実感。一方で、人口の約半数が首都ウランバートルに集中し、医療資源・専門人材の首都偏在や交通渋滞の深刻化など、急激な都市化に伴う課題も見られた。

日本との協力関係の深化

- 保健省や在モンゴル日本大使館を訪問し、モンゴルが「第三隣国政策」の下で日本との関係強化を重視していることを確認した。
- 日本企業に対して支援の希望は、インフラ・建設 、食品および農業 、IT・スタートアップ支援、医療・教育 、環境・再生可能エネルギー など多岐にわたる。特に医療分野においては、「信頼性の高い日本製品」への期待が大きい。

伝統文化と国民の誇り

- 訪問期間中はモンゴル最大の「ナーダム祭」が開催され、相撲・競馬・弓矢などの伝統文化が国民生活に深く根付いていることを実感。経済発展とともに、歴史や文化を大切に守り続けるモンゴルの姿勢が印象的だった。

モンゴルの人口の3分の1は遊牧民

「ナーダム祭」開会式の一幕

3 日モ関係の礎と今回の所感

ダンバダルジャー日本人慰霊碑を訪問して

ダンバダルジャー日本人慰霊碑は、2001年10月15日に建立された、第二次世界大戦後にモンゴルへ抑留され亡くなった日本人を追悼する慰霊施設である。
2025年には天皇皇后両陛下が供花され、戦争犠牲者の慰霊と歴史の継承、日蒙両国の友好親善を象徴する場所として、その重要性が改めて認識された。
今回、私もこの地を訪問し、遠い異国の地で亡くなられた方々に哀悼の意を捧げるとともに、平和の尊さと歴史を後世へ伝えていくことの大切さを改めて実感した。モンゴルを訪れる機会があれば、ぜひ多くの方にその存在を知っていただきたい場所である。

ダンバダルジャー日本人慰霊碑

●モンゴルを訪問しての所感●

日本のODAで整備された日本モンゴル教育病院は高く評価されており、日本式の医療マネジメントや人材育成への期待の大きさを感じました。単なる技術移転を超えた継続的なパートナーシップが求められている。

日本モンゴル教育病院